

あったらいいこんな家

時々だけとお医者さんがいる家
人が集まる家
エコの家

目 的

社会は少子高齢化が加速し、さらに医師不足による病院の閉鎖、介護保険など高齢者にとっては厳しい現実となっています。そこで「まちづくり」についても身近なところから取り組む必要があると考えました。特に車両が通行できる道路が整備されていない、昔からある斜面住宅地では多くの高齢者が買い物や通院に不自由している。自身が高齢者の仲間入りをしたときに、こんな家があったらいいなと思いまとめてみました。

概 要

行政が補助する「住宅市街地整備」の中で建替えを促進している。その中で、共同建替えについて着目しました。共同住宅を建てる際に次の施設を併設し高齢者や地域住民が住みやすい環境が整備できれば人が集まる「よりよいまち」になると思います。

1. 1階に診療所程度の施設をつくる。

- 医師は常駐ではなく、週に1日～2日程度、巡回で来院し診療する。
- 医師は地域医療機関や医師会等の協力を得て派遣してもらう

これにより高齢者は遠くの医療機関へ足を運ぶ頻度が減るのではないかと。介護保険や後期高齢者医療制度による高齢者の負担が増える中、通院のための交通費等を減らすことで少しではあるが負担が軽くなる。

2. 1階に公民館施設をつくる。

人工の減少により町費による自治会の収入が減少している。高齢者の負担増とならないよう町費額を増やせない現実がある為、公民館が供用年数を越えても資金不足により建替えが出来ない。そこで共同住宅を建設する際に工事費の一部を自治会等の負担や、可能であれば行政の補助を受けるなどにより、公民館としてのスペースを設けることで公民館の整備費用を抑える。

3. 1階に調理場等やレクリエーションスペースをつくる。

(レクリエーションスペースは公民館施設と併用)

身近なところで独居老人の孤独死があった。近年では核家族化が進み近所のつきあいも少なくなっている。地域全体でこの問題に取り組み「元気なまち」をつくる為にはコミュニケーションが必要と考えた。

月に1回程度でも、地域の婦人部などが協力し居住者や地域の高齢者を集め食事会やゲームなどの催し物を開催するなど地域のコミュニケーションを図るためのスペースを設け、大いに活用する。

また、地域の商店街にも協力を得て店舗まで買い物に行けない人のために、このスペースを利用してまとまった品物を配達してもらうなど、多目的に利用することで地域が活性化すると考えられる。

4. 2階以上は住居とする。

2階以上は住居とするが、1階は地域住民も利用出来る施設であることからセキュリティには配慮する必要がある。しかし人が集まることで地域のコミュニケーションを図ることができ、独居高齢者の孤独死も減るのではないか。

5. 屋上は地球温暖化に配慮し緑化をする他、光熱費などを抑えるために太陽光発電を設ける。

世界の情勢が不安定な中エネルギーの枯渇により電気も使えなくなる時代がくるかもしれない。そんなとき太陽光発電があれば太陽が出ている間だけでも電気が使える。自身の家にも太陽光発電をつけているが3人家族で真夏の電気代は今までの1/3程度である。

屋上の緑化については居住者や地域住民が参加しイベント程度でおこなう程度のものを考えている。

実現する為に必要と思われる主な検討事項

1. 診療所スペースの工事費用や診療に必要な器具や設備の整備費用や運営
(地域の人口によって予算額を決め、各自治体の単独予算で補助ができないか。
運営は、自治会やNPO法人等による運営ができないか)
2. 診療所に派遣してもらう医師の手当てが現実的に可能か。また、薬をどこでもらうか
(薬については地域のボランティアによる宅配又は郵送ができないか)
3. 居住階のセキュリティ
(居住者が少ないため、オートロックにより対処可能ではないか)

あったらいいなこんな家

イメージ図

